

平成28年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事録

日時	平成28年8月16日(火) 午後1時30分～3時45分		場所	本庁舎3階 大会議室
出席者	推進会議 委員	内田 俊宏 委員 (中京大学経済学部客員教授) 【座長】 山本 武司 委員 (清須企業懇話会幹事) 野村 均 委員 (愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室室長) 北山 ゆり 委員 (愛知県立新川高等学校校長) 舟橋 啓臣 委員 (愛知医療学院短期大学学長) 山田 功 委員 (中日信用金庫理事長) 平野 邦弘 委員 (日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表)		
	清須市	企画部長、事務局 (企画部企画政策課)		

1 開会

○企画部長あいさつ

葛谷部長

清須市企画部長の葛谷です。

本日は、皆様お忙しい中「平成28年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

昨年度は、委員の皆様のお蔭をもちまして、平成28年2月23日に「清須市人口ビジョン」及び「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定することができました。

この推進会議におきましては、この総合戦略に位置付けた施策について、前年度の取組みを検証する場として、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。

今後、毎年度このような会議を開催させていただきたいと考えておりますが、本日は総合戦略が稼動したばかりということもありますので、前年度事業といたしましては、国の地方創生先行型交付金を充当した2事業に限定して検証を行っていただく予定です。

また、総合戦略に基づいて今年度から着手しております清須学推進事業につきましても、ご意見をいただきたいと考えております。この事業につきましては、既に各委員の皆様におかれましては、個別に様々なご協力をいただいております。この場をお借りして、あらためましてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

それでは、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局

それでは、議題に入る前に、今年度から委員にご就任いただいた方をご紹介します。

行政機関の代表といたしまして、愛知県教育委員会文化財保護室の 野村 均 (のむら ひとし) 室長様です。野村様は、今年度から文化財保護室長にご就任されまして、今回の会議からご参画いただきます。

野村委員

愛知県教育委員会の野村と申します。本日お配りいただいている資料の中にチラシと招待券が入っておりますけれども、先月7月2日から8月28日までの会期で、瀬戸市にございます愛知県陶磁美術館で「弥生への旅 朝日遺跡」と題しまして企画展を開催しているところでございます。

この企画展では、朝日遺跡からの出土品がたくさん展示されているわけですが、県が所蔵する主要遺物2,028点が2012年に重要文化財に指定されまして、この企画展には大半の出土品を展示しております。これまで多くの方にそのすばらしさを実感していただいておりますけれども、大変好評を得ているところでございますが、このような600点を超える重要文化財を一堂にご覧いただける機会は初めてのことでございます。

会期末まであとわずかとなってしまいましたけれども、機会を捉えてぜひご覧いただきたいと思っております。ご紹介させていただきました。

2 議題 地方創生先行型交付金充当事業に係るK P I 検証について及び清須学推進事業について

事務局

どうもありがとうございました。それでは早速、議題に入らせていただきます。

ここからは、座長の内田先生に進行をお願いしたいと思います。内田先生よろしくお願いたします。

座長

それでは、昨年度に引き続きまして座長を務めさせていただきます、中京大学経済学部の内田です。よろしくお願いいたします。

それでは早速、議事の進行に入ってまいりたいと思います。

今日は2つ議題がございます。まず(1)といたしまして「地方創生先行型交付金充当事業に係るK P I 検証について」、2つ目が(2)「清須学推進事業について」ということで、この2つのテーマについて委員の先生方のご意見を頂戴したいと思っております。

まず、議事の進行の前段階といたしまして、お手元に配付されている資料に基づきまして、事務局から一括でご説明をいただきまして、その後で各委員の先生方から順次ご意見を2巡に渡って頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは最初に事務局より、本日の資料についての説明をお願いいたします。

○資料説明 (事務局)

○意見交換

1) 地方創生先行型交付金充当事業に係るK P I 検証について

座長

ありがとうございました。それでは、今の事務局から説明がございました2つの事業につきまして、ちょっと分かりにくいかと思えますけれども、2巡に渡って議題それぞれについてご意見を頂戴しようと思っております。

まず1巡目といたしましては、地方創生先行型交付金充当事業に係るK P I 検証ということで、総合戦略のK P I の達成にどの程度有効であったのかという観点から、各委員お1人ずつ5分くらいを目途にご意見を頂戴したいと思います。

それでは、いつものとおりで恐縮ですが、山本委員からお願いしたいと思います。

山本委員

山本でございます。よろしくお願いたします。私の考えは、大きく2点です。

まず1つは、今後の取り組みをどうするのか。特に、未達成の部分についてどうするのかというところでございます。満足度については、達成されているということですが、アプリのダウンロード件数は年度末時点では未達成ですけれども、先ほど説明を聞いている中では8月1日現在では1,000件を越えているということですので、この調子で進んでいただければなと思っております。

(7) にあります総合戦略でのK P I、こちら33,600件。単純に1,020で割ると大体1人当たり33回、10日に1回くらい見てもらうような、そういうコンテンツづくりを進めていただければなと思っております。

2つ目の観光の部分です。こちら満足度としては単年度としてはクリアできていますが、総合戦略の中での基本目標につきましては、まだ課題があるのではないかと考えています。

清洲城の来場者数、順調に増えておりますけれども、W i - F i のアクセス数、あるいは外国人の入場者数については、現状の勢いだとも目標値に届かないのではないかとこの部分がございまして、そういう意味で、それに対して何をやっていくかというところが重要でございまして、「積極的なP R活動を実施する」とありますが、具体的にはどこでどのような周知活動を実施するのかというのを、できればお聞かせいただいた方がイメージが湧きやすい。積極的なP R活動はもちろん必要なのですけれども、それだけではなくて具体的にはどうお考えなのかというところを聞きたいと思っております。

あと、細かい話に移るのですが、多言語対応。英語、フランス語、中国語とあるのですが、昨年の日本政府観光庁による訪日外国人観光者数ですけれども、大体2,000万人くらい来られる中で、中国人で500万、韓国からで400万、台湾の方で370万、香港150万、アメリカ100万、フランスが20万なのですね。フランス語圏というところで、例えばスイスとかベルギーを入れていったとしても30~40万になるので、フランス語を作るのだったら、韓国語の方が優先順位が高いのではないかと個人的には考えました。それは他にもいろいろ理由があるのかと思えますけれども。

細かい話の2つ目ですが、アンケート調査。観光客に対して紙でやったということですがけれども、せっかくWi-Fiの事業をやっているの、スマホで答えられるようにした方が集計も楽ですし、実際Wi-Fiを使った方のアンケートとしては、そちらの方が、やり方として適切ではないのかなと思っております。

最後に、積極的なPR活動ということですがけれども、やはりちょっとしたことがあってもPRをしていくべきだと思います。具体的には私はマスコミのPRを考えております。

先日、清須市立図書館さんと名古屋芸術大学さんとコラボしてイベントを行わせていただきました。清須市立図書館さんが、弊社のビール工場があるので日本一ビールに詳しい図書館になると、そういつて名古屋芸術大学の学生にビールをイメージした本棚を作ると、そういうふうにリリースをかけたところ、中日新聞さんと中京テレビさんで掲載・放映がございました。

このように、単体ではなくていろいろなコラボとか発というのがマスコミは好きですので、どんな小さなことであってもリリースは出し続けて、ストロークは打ち続けるといいですか、アプローチはし続けて、少しでもアピールして、それが清洲城の来場者数、Wi-Fi、あるいは外国人の入場者数を達成することができるのではないかなと思っております。そういう意味で、座長の内田先生もマスコミにたくさん出ておられるので、内田先生にも毎回リリースをお届けしていますのは、そういうことで興味を引いていただくというのもあると思います。

そういったマスコミの先に、紙面を読んだ、あるいはテレビを見た清須市民のシビックプライドの醸成にもつながると思いますし、逆にいい意味でのブーメラン効果で、中日新聞とか中京テレビが清須市のことを取り上げて評価してくれたということは、シビックプライドの醸成に役に立つと思っておりますので、ぜひそういった視点を持って、常にリリースを出し続ける、マスコミにアプローチをかける、その先にある市民を意識してではございますが、そういった活動をしてはいかがでしょうかというところでございます。以上でございます。

座長

ありがとうございました。山本委員の方から多岐に渡るご指摘、ご意見を頂きましたけれども、まず1つ目、子育て情報発信事業に関連しては、私も同様のコメントをしようと思っていたのですが、先ほどアプリのダウンロード数に対しての全体の目標値33,600件、1人当たり33回。これだけのアクセスを実際にしてもらえるコンテンツになっているのかどうか。

一方的に市の側からの情報提供という形になると、恐らくそこまでの、確認作業を含めても、あとスマホとパソコン両方からアクセスするケースを考えても、1人33回というのはかなりハードルが高いのかなという感じはしております。例えば、利用者の相談に対する回答が一定期間の後に提供されるとか、参加者、アプリの利用者同士の意見交換の場であったり、いろいろなニーズを取り込むような、そういうようなものとか、あと、何かインセンティブ、育児関連施設を利用する際のインセンティブがあるとか、よほど何かないと目標値の達成は難しいものがあるという気はいたしました。

あと、これは全体の今回の結果の7月の708件、8月1,020件ということで、件数そのものはあるんですけども、妊娠から修学前後のお子さんを持っている親御さん、お母さんの数に

対してのアクセス件数、ダウンロード件数というのが非常に重要かと思しますので、アプリの認知度を高めるための情報発信、先ほど山本委員からもご指摘ありましたように、どういう場所で、どういう方法で、口頭だけなのか、チラシとか何か提供しているのか。その辺もかなり重要になってくるといえるか、母数が増えていかないと全体のアクセス件数も増えないと思えますし、実際に子育てしやすいまちづくりというその辺につながっていかないと思しますので、その辺り、今後の検討事項としてリストアップしていただければと思います。

あと、2つ目の観光誘客促進事業に関するご指摘も、まさにおっしゃるとおりという部分がありました。フランス語に関する情報発信。確かにフランス人で日本に来ている親日の方も多いですし、こういった歴史・文化に対する意識は非常に高いと思えますけれども、全体の実数に対しては、恐らくかなり遠隔地ですし、そもそもの訪日旅行のコストが非常に高くなるということですので、フランス語での発信が適切かどうかというのは再検討する必要があります。

あと、中国語とありますけれど、これも恐らく普通語といふか北京語での配信だとは思いますが、北京語、普通語と台湾とか上海とか、全く違うケースもある。漢字表記ですと同じなのかもしれませんが、その辺も分析する必要があります。

あと、ご指摘のあった韓国というところは、数でいくとかなり多いかと思しますので、この辺も愛知県への訪日客の国別の来訪者数等を分析しながら、再検討していく必要があると思えます。

あと、Wi-Fiの利用に関しては、先ほどアンケートへの回答もスマホでの回答の方がいいのではないかと。これもそうだと思いますし、あとは利用件数がWi-Fiに関してはそれほど伸びてないと事務局からご説明があったのですが、これも基本的にそのエリア内での滞在時間をいかに伸ばすか、滞在時間が長ければ長いほど当然ながらWi-Fiの利用頻度は上がります。実際にインフラ整備がされていても、滞在時間が極めて短い可能性もありますし、その辺りは今後、課題として残ってくるのかなと思います。

最後に、PRのメディア活用という視点も非常に重要かと思えますが、直近でいいますと愛知県の服部半蔵忍者隊でアメリカ人のニールさんという方が採用されたのですが、その採用時、募集内容でかなり海外のメディアも取り上げて、さらにそれが海外でSNS等でかなり広まった。海外からの応募の方が多かったという愛知県の事例等もありました。

これも国内のメディアはもちろんなのですが、海外での情報発信、これはセントレアとか名古屋駅とかオアシス21といったところとの連携で取り組むということなのですが、海外に対して直接発信の方が効果的なケースもあろうかと思しますので、その辺は実際にフランスからわざわざ清洲城に来ているという方もいらっしゃるようですので、海外でのメディア発信も併せて検討していただければと思います。

それでは続きまして、野村委員の方からお願いします。

野村委員

愛知県におきましても、先ほど紹介させていただきましたけれども、当地にごぞいます全国最大級の弥生時代の集落、朝日遺跡を紹介する清洲貝殻山貝塚資料館のにぎわい創出を目的と

いたしまして、昨年度からにぎわい創出会議というものを設置しております。その委員といたしまして、この会議を主催しておみえになります企画政策課の河口課長さんを始めとして清須市の行政の方、教育関係者、それから商工会議の事務局長さんにご出席していただいて、加えまして今年度から清須市のガイドボランティアの会の方ですとか、子育て講座の講師さんといった市民の方にもご参加していただいて、資料館の現状や課題、今後の方向性についてご意見を頂いております。清須市の方々に大変お世話になっておりますことを、まずもってお礼を述べさせていただきますと思います。ありがとうございます。

本題に入りますけれども、私の立場といたしましては、歴史・文化を活用した観光拠点の強化、清洲城と清洲貝殻山貝塚資料館の一体的なPRでの連携といった意味合いでの委員だということでしょうから、私の方からも観光誘客促進事業についての発言をさせていただきたいと思っております。

まず、清洲城等に公衆無線LAN環境を整備し、Wi-Fiクラウドサービスにより多言語対応で観光・飲食等の地域情報を発信されたということで、(5)達成の欄に「清洲城の付加価値が向上し、初来場者を中心に総合的に評価を得た」と記載されてございますが、この点につきましては今後においても大変な効果が現れるのではないかと考えております。

実は、本県の観光局の方で昨年7月から10月に、セントレアから出発便で帰国する外国人の観光客、1,094人と伺っておりますけれども、その方々に対して様々な聞き取り調査を行った結果でも、県内の観光に対しての不満といたしましてフリーのWi-Fi設備が充実していないという点を、断トツの1位に挙げてみえるのですね。複数回答であったようですけれども、概ね2人に1人の方が不満があると指摘されているようです。若い世代もそうですけれども、特に外国人の観光誘客のためにはこれからは不可欠なものだと思っております。

それから、多言語対応につきましては、先ほど企画政策課長さんもおっしゃいましたし、山本委員もおっしゃったのですが、私も何故フランス語なのかと思いました。観光局から愛知県の訪日観光客の動向調査も出ているようですので、そちらの方も参考にしようかと思います。

また、(7)総合戦略の関連箇所の欄に、地域資源の積極的な活用ということで清洲の貝殻山貝塚資料館を挙げていただいておりますけれども、清洲城の合計入場者数の目標値12万人ということでございますが、12万人というのは27年度中の目標値だったのでしょうか。

事務局

お答えいたします。総合戦略での目標値というのは、総合戦略の終期でございます平成31年度の年度1年間の目標実績でございます。

野村委員

分かりました。ありがとうございます。私もそうかなと思っていたのですが、違うのかなとも思ってしまってすみません。

目標の12万人、31年度ということなのですが、基準値の約1.4倍というふうに計算されます

が、単純に計算いたしますと資料館単独では約7,000人という計算になるかと思えます。実はこの資料館ですけれども、入場者数はここ数年、5,000人をちょっと越える程度であったのですけれども、昨年度からのにぎわい創出に向けた取り組みの成果もございまして、今年度は7月末現在で4,798人と、資料館といたしましては驚異的な集客をしております。このままでいくと今年度中に7,000人は達成できるのかなと考えております。これもひとえに清須市さんのおかげかと思っております。

冒頭で触れましたにぎわい創出会議でも意見が出ておりまして、私どもも事業活動の方針としておりますけれども、地域との連携活動として地元清須市さんの観光の目玉でもある清洲城さんやキリンビール工場さんとのコラボですとか、観光のパッケージ化ということを考えながら、朝日遺跡を少しでも多くの方に知っていただいて、32年度の秋に新しい施設の開館を予定しておりますので、地元で愛される施設とすることが本県の責務であると考えております。

私も来る前に勉強させていただきましたけれども、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略の政策パッケージに史跡等を活用したまちづくりといった項目もございまして、歴史的に由緒ある史跡等について整備中・整備後に地域の中でどう生かすか、活用を念頭にしつつ、来訪者の目線で修復・復元等の整備を行い、地域の宝として史跡等の価値の再発見、継続的な魅力発信につなげることにより、地域の活性化、アイデンティティの醸成を図り、地域創生に寄与するという事業は、清須市さんの掲げられる地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちづくりという施策と同じではないかと考えております。今後ともさらに連携を密にして、清須市さんとの観光誘客に少しでもお役に立てるよう、足を引っ張らないようにしたいと思っております。以上です。

座長

ありがとうございました。まず基本的に野村委員の方から、観光誘客促進事業に関するご指摘いただいたのですけれども、多言語対応に関して、先ほど山本委員からもご指摘があったとおりなのですが、これは英語、中国語、あとフランス語、3つ目としてフランス語をセレクトされた意図はあるのでしょうか。

事務局

お答えいたします。昨年度、この事業を立ち上げた際に、いわゆる歴史的な地域資源を活用するに当たって、外国人と一言にいっても欧米系とアジア系では指向が違うということで、主にアジア系の方の日本旅行の目的を順位づけしてみますと、一番の楽しみは日本食を食べること、2番目がショッピング、3番目が自然・景勝地の観光であると。それに対して欧米系の方は、まずは日本食を食べること、2点目が自然・景勝地の観光、3点目で歴史・文化体験ということで、アジア系の方は逆に歴史・文化体験というのはあまり上位には上がってこなくて、欧米系の方こそ取り込むフックがあるという見方で、あえてアジア系の言語よりは多少マイノリティではあるのですが、欧米系の言葉を優先したというふうに所管課の方から説明を受けております。以上でございます。

座長

ありがとうございます。観光目的でいうと、間違いなくアジアの方よりは欧米人観光客の割合の方が高いとは思いますが、当然ながら愛知県に来訪する訪日客全体の母数に対する掛け算で人数は決まってくると思いますし、その観光目的の割合に対する母数を掛けた実数と、今後の見通しもそうですけれども、あとは場合によっては高山とか、かなり訪日客、欧米人も相当来ている、京都なんかはもちろん一番ですけれども、昇龍道エリアでいうと高山辺りが相当多言語対応での先進地域ということがありますので、高山への来訪者を場合によっては、相乗効果で誘客するというような現実的なことを考えると、高山での入込み客の割合、地域別の割合を参考にされてはいかがかと。

欧米人の方はいるような気はするのですが、高山でフランス語を聞いたこともあまりないので、ひょっとすると英語対応でいけるのかもしれないですし、欧米ということでもフランス語なのかドイツ語なのか分かりませんが、その辺も、この地域、それから将来的には京都に来ているような人たちを取り込んでいくという観点で、多言語対応に関してはこれからの対応を考えていった方がいいのではないかと。

それから、野村委員の方からご指摘があった、愛知県の外国人訪日客にセントレア辺りでアンケートをした結果では、フリーWi-Fiのエリア設定がないということが不満の第1位であると。これは清洲城に関してはその対応を進めているということなのですからけれども、これもやはり、実際に滞在時間が長いかどうかという、恐らく外国人観光客は都市部の街歩き、名古屋でいうと栄とか名駅といった、滞在しているホテルの周辺でのフリーWi-Fiの少なさというところを指摘していると思います。

清須のような観光地では、やはり滞在時間を長くして、そこでのフリーWi-Fiのサービス利用を促すということが非常に重要かと思しますので、これは、以前の委員会でも各委員の方からご指摘があったように、滞在時間を伸ばせるような、外国人の方が長く滞在できるような、興味を引くようなコンテンツだとかそういう場所があるのかどうか、そこがこれからの課題になってくるのだらうと思います。

それからあと、朝日遺跡についてのご指摘もございました。既に7月末で5,000人弱まで入場者数が伸びているということなのですからけれども、これは具体的に要因は何でしょうか。

野村委員

特にこれといった要因はないのですが、これは後でお話をしようと思っておりましてけれども、貝殻山貝塚資料館の方は、昨年まであまりPRもしていなかったのです。その点で、新たに新施設を作ることによって企画が動き始めましたので、昨年度来、積極的にPRに心がけております。そういった効果が出ているのかなとは考えております。

座長

ありがとうございます。先ほどチケットを頂きました瀬戸の愛知県陶磁美術館での企画展等

も、当然ながら朝日遺跡に対する認知度をかなり高めていると思いますし、こういった県の取り組みも積極的に情報提供の場として、清須市としても活用していただきたいと思います。

それでは続きまして、北山委員お願いいたします。

北山委員

よろしく申し上げます。両方とも感想になってしまうのですが、まず子育て情報発信事業の方ですが、市民の参画を得て、利用者目線だということで満足度の方が目標値よりも85.6%ということで達成しているという、そういう結果を説明いただいたのですが、私は高校生を持つお母さんたちの相談に乗ることが本当に多くて、そうしますと結構、幼少の頃に、ちょっと他の子と発達違ったような時なんかの悩みや相談を、まずは行政に相談に行くのですが、なかなか自分の満足のいく支援がしてもらえなくてという、そういう苦しみを、結構今、高校生になった時に聞かされることが多いです。

そういうことを考えると、本当に今、多様性の時代なので、そういう若い方たちの悩み、本当にいろいろあると思うのですが、支援できるような内容の充実を図っていただきたいと思うのです。座長さんがおっしゃったように、母数を増やさないとアクセス数とかダウンロード数が増えていかないのはそうなのですが、今の人たちはスマホも使いこなしているし、情報収集に長けているので、自分の求めているもの、ニーズに合うものかどうかというところは、若いお母さんを見ていても、高校生を見ていても、すごいなと思いますので、そこら辺を今後も充実していただきたいと思います。

それから、観光誘致促進事業の方は、私は、高校生が地域探求ということで清洲城や清洲公園や資料館の方へ行って探求活動をするというのを去年は立ち上げたわけなのですが、今回は外国人の方の観光ということで、そちらの方の話題なのであまり参考になるようなことが言えないのですが、ただ、私、去年1年間で清洲城に5回行きまして、この8万人の中に5人入っているのですが、それは本当に小さな動きかもしれませんが、いろいろなところでPRできたらなと思ったのです。学校のことはまた後で、清須学のところでお願いをしたいとかいうことを言わせてもらいたいのですが、私はいつも清洲城に行くと、必ず外国人の方に会うので、もっと多いのかなと思っていたのですが、まだまだなのだなということを再認識しました。

全然外国人とは違うのですが、学校の取り組みではなくて、実は私、去年、尾張地区なので全部です、一宮市も稲沢もあまも全部含めるのですが、尾張地区の高校の国語の教員の研究会があって、その会長をしていたので、それだったらと思って清洲城と清洲公園をガイドボランティアの方に説明してもらって、そこを見て、その後研究発表会をやりましたということを企画したのです。そうしましたら、復元天主閣ができた時に1回来ただけだとか、実はまだそれもできてなくて、思い起こせば小学校の時に遠足で清洲公園に来て以来だとかというふうに、結構たくさんの方が言われて、実際どうでしたと聞くと、よかったと言われたので、ぜひご家族でと言っておいたのですが、やはり近くにいる人でも知らないということが多いのだなということで、でも、私も5回行ったということは、それだけ見応えのあ

るものができてきているということですので、この後、私もリピーターになっていくためには、企画展とか、そういうようなところを充実していただくと「また行ってみよう」という気持ちになるかなと思いました。

それは外国からいらした方も、先ほど滞留時間と言われましたけれども、いろいろな面白いテーマがあればいいのではないかと思います。

それと、これもまたちょっと話が違うのですが、今度の制度も、外国の方と関わるようなイベントや行事、留学もそうです、出かけます。必ずそういうところから戻ってくると話を聞くのですが、これもよく言われていることですが、つたない英語でも、中学校の英語でも先生通じたよと。でも、一体何をしゃべらなくてはいけないのか。必ず外国の方には、日本の歴史や文化を語れる。その時に、そんなに膨大な歴史、日本史の教科書のようなことを語れないので、新川高校からそういうところへ行く子は、まず自分の通っている学校は日本の清須市というところであって、ここにはこういう歴史や文化があつてということが語れると、その歴史も日本史の中でも相当面白いものですから、そういうものを子どもたちには作ってあげたいなと思っています。

それも外国人の方に来ていただける、ひとつのきっかけになればという、そんなことを考えてみました。以上です。

座長

ありがとうございました。年に5回というと結構多いと思うのですが、フリーWi-Fiが利用可能であるというのも、何回か行ってすぐ分かるような。

北山委員

私はアナログ人間ですので、全然それは関係がないです。

座長

そうですか。やはり、こういったフリーWi-Fiを利用する外国人に関して認知が徹底されているのかという辺りも、満足度は高いのですが、アクセス、実際の利用者数にはランクアップしてくると思いますので、この辺りもバックアップを考えていただきたいと思いません。

あと、高校生に限らず、学生さんたちの、場合によっては実際に現地を見るということだけではなく、外国人の誘客数が増えてきた場合というのは、自分たちの地域の歴史とかそういうものを、英語で教材として外国人に対してアピールするとかそういう、シビックプライドと実際の清洲城のPRを結び付けて考えるような、そういう場所にするという考え方もあるのかなと。やはり、なかなか若い人たちは歴史を勉強している時は興味を持ってなくて、シニア層になってから地元を中心に興味を持つというケースもあるかと思いますので、若い人たちが外国人と接するような機会も同時に作れますし、外国人の方に対してもWi-Fiが使えるとか清洲城はこういういいところなのだというようなアピールができる。

やはり人は多い方がいいと言うと変ですけども、若い学生さんたちのにぎわい空間があったり、あとはその延長線上で土日なんか無料Wi-Fiを利用しながら集まるような学生さんなんかもある可能性もありますので、そういうことも企画されてはいかがかなと思いました。

あと、企画展が非常に重要です。確かに外国人の観光客の団体客であればバスで自動的に来るような形になるのですが、個人のリピーターを増やすという観点でいくと、毎回何か違うものがあるということがないと、体験型ということはありませんけれども、企画展のような情報発信の面でもやはり、イベント等を開催するとかそういったところが必要なのかなと思います。

あと、この事業費の中に入っている甲冑等を試着した外国人観光客に認定証を発行しているとあるのですが、この辺も試着した人たちに認定証を発行するということがプラス、PRとして自国に帰ってからPRしてもらえそうな、無料で配布できるようなものがあると、アクセスしてもらってSNSで拡散するということにつながるような情報発信もできると効果的なのかなと感じました。

それでは続きまして、舟橋委員お願いいたします。

舟橋委員

愛知医療学院短期大学の舟橋と申します。よろしくお願いたします。

まず、子育て情報発信事業に関してですが、私もネットでこちらに入って、これを立ち上げていろいろ見てみました。そうすると、今年の1月に更新したものと、5月に更新したものと比べると1月のは、全く何も見るべきところがなかったのですが、5月にはかなり分かりやすく、丁寧に解説がしてある。アプローチもしやすいし、私の感想では相当良くなったという印象を持ちました。すごく努力されていると思いました。

ただ、何かの意見にもあったように思うのですが、何故前からなかったのかという意見もあったように思います。これは、前がひどすぎた。はっきり言って、ということにつながっていると思うのですが、でも改善したのですから、本当に分かりやすくなったという印象を持ちました。

私のところの職員に、このことについて聞いてみました。清須に住んでいる職員です。未婚の女性に聞いてみました。全く知りませんでした。知らないということです。すごく良くなって、インターネットで、これちゃんと見ているのかと言ったら、「えー」と言っているだけで、広報では入っているかもしれません。「広報は見るのか」と言ったら、「広報は見たことありません」といいます。若い人は。広報が高齢者向けになってしまっているという印象が強いなと思いました。

結局これは、利用者の満足度は高いのですが、利用しない人はしないということで、委員のたくさんの方がおっしゃっているように、やっぱり周知度が低いということですね。これをどうしたらいいのか。未婚者の女性はそうでした。

今度は、男性の既婚者で、つい最近子どもが生まれた男性がいたものですから、その人をつかまえて「こういうのがあるのを知っているか」と言ったら、「さあ？」と言うのです。「さ

あって、清須に住んでいるんだろう？」と言ったら、「住んでます」「最近生まれたよな？」「生まれました」でも知らない。「じゃあ奥さんは知っているんだろうか？」と言ったら、奥さんも知らないということでした。結局これも、どうやったら周知度が高められるかということに、すべてそこにかかっているのではないかと思いました。

それから、未婚の女性が言ったのは、最近、若い人口が増えてきていると。区画整理が始まって、家が建ち始めて、若い人が増えてきていますよねと。その未婚の女性、比較的若い女性がそう言うので、これは実感として感じているのだろうと思います。高齢者のパーセンテージが急激に上がらないというのは、結局、若い人が増えているということになってくる。

そうだったら、このアプリにアクセスする、子育てに関与するお母さんたちの母数のうちのどれだけがアクセスしてくれるかということをつかまないといけないと思いました。

それから、観光の方ですが、先ほどから出ていますW i - F i のことがたくさん出ていますが、清洲城へ行ってW i - F i をやる意味があるかなと思いました。清洲城へ行って、そこだけの目的で行っている人がW i - F i を何を見るのだろうか。そこで実際に目で見ればそれで済むのではないか。その周りとのつながりという意味合いがあったのかもしれませんが、もう少し、座長も言っておられた滞在時間、前からあるように飲食するところは全くないし、私もW e b で見てみました。インターネットで見て、清洲城のネットのところはずいぶん改善されてきたと思いました。散策路のことについてもたくさん載っていましたし、何となく行ってみたいなという気が私もしました。だから、ずいぶん改善したのだと思いました。

そこで、朝日遺跡の方も、月火水及び祝日が閉館ということですか。今も。その辺も人件費がかけられるなら、その辺も開館できるはずですので、週3日休みというのはちょっと多いような。せっかくの立派な遺跡ですから。それもネットで見て、ずいぶんそそられました。見てみたいなと思いましたので、もう少しその辺を考えていただければなという印象を持ちました。

それから、散策路などいろいろ含めて、いろいろな個所へ行けるので、美濃路散策が原点になっているということですが、そこから一部分で清洲城の辺りということを見ても、神社仏閣がいっぱいあるし、ただ、食べるところが一休庵さんと飴茶庵さん、それだけしか載ってない。そうすると、レストランは1軒だけ。何か寂しい。そういうことからすると、行ってみたいと思わせるようなふうに構築してほしいと思いました。

私はここにいるから、ここにいても知らないから行ってみたいと思ったのですが、他の職員にも聞いてみましたが、清洲城をネットで見ただけの人が最近、「見たことあるか？」と言ってもいないので、私もずいぶん一生懸命PRしました。

それから、この4月に入学した学生、新入生の中に、入学してすぐにいろいろな説明会を、学生のための説明会をやるのですが、時間が短いので余裕があって、学生たちの何人かが「清洲城へ行ってきました」といって、喜び嬉しそうな顔をして、「ここに来てよかったです。清洲城が見られたから」と言っていました。来た人は、見た人は1回は満足する。だけど、それだけということではいけないので、ここから考えていくことがいろいろあるだろうと思います。

いずれにしても、周知を図る。これをどうやったらいいか。何をやってやるかというのを、真剣に、もっと突っ込んで考えないと、広まらないのではないかという危惧を抱いています。

以上です。

座長

ありがとうございました。舟橋委員の方からは、まず子育て情報発信時業に関しては、実際にアクセスされてウェブサービス、相当分かりやすくなっているという。これも計画の目標達成に近づいているのかなという印象は受けましたけれども、身の回りの実際に出産された方とか、未婚の方とか、男性の方とかいろいろ、サンプルが少ないにしても、いろいろ聞いていただいて、未婚女性、これは当然ながら実際に妊娠されて出産されている、未就学児の辺りへの情報発信が中心ということで、知らなくて当然という見方もできなくもないのですけれども、最終的に子育てしやすい、最終的には定住してもらおうという目標があるという前提でいけば、当然ながら未婚女性に対するそういったPRも非常に重要になってくるかと思います。

それから、イクメンも舟橋委員の周りでは少ないようではございますけれども、男性に対するアピールというか、男性の方がむしろそういった情報収集に関しては、実際に男性が情報収集して奥さんに「こういうWebサイトがあるよ」というような情報を提供したりするケースもあろうかと思っておりますので、その辺は、ちょうど出産して子育てをしている女性だけに限らず、幅広くPRしていく必要はあるのかなと感じました。

あと、先ほど北山委員からのご指摘にもありましたけれども、中味が重要であると。コンテンツが非常に重要であるという話を私も冒頭でしたのですけれども、こういうアプリだとかWebサイトでの行政サービスの情報発信は、他の自治体でも当然ながら国からの補助金を投入してやっているケースがかなりあろうかと思っておりますので、問題は中味、コンテンツだと思うのですね。やはり、先ほど北山委員からのご指摘ではかなり苦労されているお母さん方が多いということですので、いかにこの地域の地域ぐるみで、実際に子育てを経験された、シニア層まで行かないまでも、既に高校生とか大学生ぐらいで妊娠期から中学前後までの体験をされたような方々が地域一体となって若い人たちをサポートしていけるか。

そこでの違いしか見出せないかと思っておりますので、清須では地域全体として盛り上げてくれる、サポートしてくれるというような、そういうところが、先ほど何かそういう相談に対しての回答だとか、参加者同士の意見交換だとかそういった場があるといいという話をしたのも、地域ぐるみの取り組みができるかどうかという、そこが差別化につながっていくかと思っておりますので、コンテンツに対しても見直しを進めていただきたいと思っております。

それからもう1つ、清洲城に関して舟橋委員からご指摘いただきましたが、やはり滞在時間を長くする場所がなければ、Wi-Fiを整備してもあまり意味がないですし、外国人の方に関しては、来てもらって、そこでいろいろ時間を使ってもらって、最終的には物販等でも飲食等でおカネが落ちるところまでいかないと、当然ながら、にぎわいというか、店舗が新しく発展したりとか、そういうところまで行きませんので、あと、若い人たちに関して、なぜスターバックスにいるかということ、やっぱり電源があって、なおかつフリーWi-Fiがあって、試験勉強というか、かなり長い時間いても全く大丈夫という、そういう場所が学校以外にないと、今の若い人たちは長時間滞在してくれませんので、やはりそういう若い人たちも含め

て、長くいられるような場所が出てくるといいのかなと。その辺はニワトリと卵の関係で、人が集まってこない、スタバなんかは当然ながら採算が合うところにしか来ませんし、ただ、別にスターバックスでなくても、電源が使えて、なおかつ試験勉強を長時間やってもいいとか、場合によっては若い人のデートスポットになっているとか、そういう場所が出てくると、外国人の、団体客はすぐ帰ってしまいますけれども、個人のリピーターが増えてくると、フリーWi-Fiが使えて、なおかつ時間を潰せる、なおかつ多言語対応のものが可能な、そういう場所になっていくということまで行くと、利用者の数そのもの、母数も増えて、満足度もさらに高まっていくのかなと感じました。

それでは続きまして、山田委員お願いいたします。

山田委員

山田でございます。よろしくお願ひいたします。

まず、子育て情報発信事業の件で、KPIの検証ということなのですが、これは初めの一步で皆さんにいろいろ情報を集められていくことでスタートを切られておりますので、これはここを機に広げていくことが、極めて重いことを始められたと思います。

実は、こういったことをやる時に、先ほど来再三お話が出ていますけれども、私はキーワードは「感動」だと思います。自分が困っていることについて、こうやって確認して、「そうなのか」と、「こういうことなのか」と思わないと、リピーターにはなかなか得ないと思いますので、これはコンテンツの内容にも関わりますけれども、「感動」をキーワードにしてやっていくことが極めて大事だと思っています。

ただ、それがどう回るかとなると、やはり、そういった対象の方々がどう思っておられるか。これは時代とともに相当変わりますので、これをいろいろな面で見ながら対応していく必要があるかなと思います。

実は私も業務の中でいろいろ感じていることがあります。世代のギャップは私たちが想像する以上に激しいです。私たちの目線から若い世代を見るというよりも、若い世代は、若い世代の中でいろいろな形でうごめいて、やっていますよね。私たちの目線から見て若い世代というのは、ちょっと違った認識になることが多々あると思いますので、こういう面では世代の違った人たちが何を思っているかということについては、違う角度で認識をしないと、なかなか難しいかなと思います。

それが、この時代の変化の中で、スピード、中味の変化は、私たちの想像以上に激しく変化していますので、若い世代で言っているのは、北山委員はどう思っているのか分かりませんが、若い世代は活字を読まない。新聞を読まない。本を読む方もおられますけれども、極めて少数だと思っています。全部デジタル情報で得ていることで満足しているのですが、私は何を言っているかということ、理解はしているけれど分かってないということです。言葉では分かっているけれど、本当のところ分かってない。私は、そういったことが多々あると思います。知っているからしゃべれます。しゃべれるけれども、本当に自分の心から出てない。これは多々あります。そういったこともキーワードとして見ていく必要があるかなと思います。

特に、数値になるとどうしても、前年どうしていたから次どうしようという、数値の大きさをどうしても重要視します。これは我々も数字を扱っているのでよく分かるのですが、中味がどうかですね。何故こんな数字になっているのかについては、先ほどの話にも言われるように、どの対象に何を目的としてやるかということについて、数字を見ながら、確認をしながら進めていく必要があるかなと思います。

我々の世代、特にIT世代、私の場合、しっかりと身につけている世代ではないので申し訳ないのですが、そういう面でいくと感度を私も合わせなければいけないと思っていますので、そういったものをいかに使ってその人たちに訴えていくかということは、こういった事業の中では極めて大事だと思っています。

子育ての情報発信ということについては、核家族化ですね。北山委員がおっしゃったように。私の身内でも非常に困っている方がいます。誰に相談するんですかということで、身内にいないとどうするんですか。やはりどうしてもデジタル情報になってしまうんですね。ただし、一方で検索しながら、一方で信用してないところもあるのです。そういうこともありますので、行政から出しておられる情報ですから、信用性については問題ないですが、利用者の立場を考えて情報を出していただくと、そのことが口コミでつながって、静かな広がりになって、利用者層が厚くなってくると思います。

あと、清洲城の件でございますけれども、先日ガイドの方とお話しする機会がありまして、お話を承っている中では、外部から清須に来られる方がたくさんみえるんですね。「こんな遠方からみえるんですね」ということを発見されるようなお話をお聞きしまして、これも情報発信が必要なのですが、逆情報発信ですね、外部の方々から市民の方々にいろいろな情報を発信していただく。外部の方からお話を聞いて、「そうなんだ」と、「清須ってそういうふう

に思っておられるのか」ということも新しい再認識だと思っていますので、双方向の情報を肉厚にしていくということも、先ほど言いました感動、発見ですね、そのひとつになるのではないかと思います。こういったものを機縁にして、これも静かな広がり、しかも感動ということで一気に広がれば、デジタル社会の一番のキーとしてあるのは加速度的に一気に広がるということですね。

どうしても数値になると、前例踏襲となりますと、前期がこうだったから例えば5%増で、**これぐらいでいくかと**。我々もよくやるのですが、デジタル社会においては短時間で情報が広がります。いってみれば怖さもありますし、プラスもあります。そういったものになるとやはり、「感動」とか心に訴えることがあれば、私は劇的に変わることは十分あると思います。

座長

ありがとうございました。キーワードとして「感動」という言葉を頂いたのですが、まず子育て情報発信事業に関しては、これまでも話が出ているように、他の自治体も同じような行政サービスを当然ながらやっていると思いますので、分かりやすさと、あと地域ぐるみのサポート体制ということが差別化につながっていくのかなと考えています。

「感動」ということにも関わるかもしれませんが、最終的に定住人口を増やしていくということになると、子育てに対する直接的なサポートもさることながら、例えば子育て世代の女性もいろいろなところに関心があって、趣味とか嗜好とか、グルメとか歴史とか、子育てサポートのWebサイト、アプリではあるけれども、他の趣味とかサークル活動のような形での集まりが出てくると、アクセス数の目標達成なんかはかなり簡単にクリアできてくるのかなと思います。

その辺は管理が難しいとは思いますが、例えばですけども、清洲城があるということで、城ガールとか、歴女とか、最近では全国にもたくさんいますし、そういった人たちを中心に清須ファンを増やして、最終的に定住人口増に結び付けていくと。

そういう意味では、子育て情報発信事業と、観光誘客促進事業、最終的には交流人口から定住人口を増やして、子どもを産んで育ててもらおうという、一連の流れの中での事業になりますので、この辺、別の事業とはなっていますけれども、当然、部署間、事業間の連携は必要になってくるのかなと感じました。

それからもう1つ、清洲城についてもコメントいただきましたけれども、域外からの観光客がかなり多いということで、確かに清洲城というのは歴史教科書でも出てくるワードで、信長とも切っても切り離せないというところがありますけれども、逆にいいますと、域外からの人が多いということは、シビックプライドがまだ低水準であるということの裏返しかなと思いますし、域外からの観光客に関してはやはり初回の印象が非常に重要ということになりますので、単にお城だけではなくて、その周辺のにぎわい空間づくりとか、実際にそこで他の情報も含めて情報発信をしていく。初回のインパクト、感動というのは非常に重要なのかなと思います。

それでは最後に、平野委員からもお願いしたいと思います。

平野委員

事業といいますか、スタートしたところということなので、これからいろいろ改善を進められていくところだと思います。

まず、子育て情報発信事業のところ、目標値が80%、結果が85.6%で、利用者の満足度がクリアしたと。達成しましたということなので、このアンケートの結果、ダウンロードされた方が708件で、アンケートに回答された方が223件。223人のアンケートの結果として85.6%ということだと思いますので、223という数字をどう見るかというところで、もっと該当される方がみえるのではないかと。対象になるような方々が多いのではないかと。2カ月間使用された結果としてアンケートに答えられた方ということでございますので、できればアンケートはもうちょっと続けられてもいいのかなと思います。

それから、これは数字的な話ですけども、満足したというのが85.6%ということであれば、もう少しこうしたらいいのではないだろうか、こういうふうかというご意見が14.4%はあったということだと思いますので、そちらの方ですね、私は具体的に何がどう分かりませんが、その14.4%のご意見から改善に反映できるもの、できないものがあると思いますので、

その辺のところも市としてどう整理されていくかが重要だと思います。

それは同じように清洲城の方についても、満足ということで86%という数字が出ていますけれども、残り14%は何かご意見を頂いているということでございますので、そちらの方の分析をして、対応できるものは対応していただければと思います。私の方からは、簡単ではございますけれども、その辺のところをよろしく願いますということで以上です。

座長

ありがとうございました。今ご指摘いただきました満足度調査の回答数223件。これは31.5%というのは、通常は無作為抽出のアンケート調査で、例えば500円程度のクオカードなんかを提供しても、やっぱり3割、4割くらいが限界なので、回答率としては結構高いのかなという感じはしますけれども、これは何かインセンティブ等があつての回答率ということですか。

事務局

お答えいたします。特にインセンティブというものは全くないわけですが、周知の際に基本的にチラシを媒体といたしまして対象者全員に配布するという形、特に保育園を通じですとか、新規で母子手帳を発行する際に直接手渡しで「こういった情報発信サービスをしています」ということを保健師の方から直接ご説明して、対象の方お一人おひとりに説明する中で「ぜひアンケート調査もお願いします」という、フェイス・トゥー・フェイスのお声掛けによって実現した数字かと考えております。

座長

ありがとうございます。インセンティブなしで3割は高いなと思いますけれども、先ほど平野委員からもありましたように、回答されてない方、回答されている方の中からも当然ながら満足していないコンテンツなどもあるかと思っておりますので、その辺も具体的に改善してほしい点等をご意見いただくような、そういったアンケートにすると、継続的にこれからもやっていく意味はあるのかなと思います。

それから、今のご検討の中でダウンロードただけで起動していない人とかアプリを削除された方は見ていないということだったのですけれども、これもアプリを削除、それは当然ながら使わないアプリは重いということで削除になると思いますけれども、実際にダウンロードする前提でもどの程度情報を、最終的には個人を特定できない形でトータルのビッグデータとしての数字しか把握しないということだと思っておりますけれども、やはりダウンロードとかアプリを常駐させて使うというハードルを下げるには、よほどのコンテンツの有用性がないとハードルが高くなってくると思います。その辺、どの程度アプリをダウンロードする際の情報提供というか、利用者間の情報を吸い上げている項目があるのか。通常ほぼないという前提でよろしいのでしょうか。

事務局

利用者の方の欲しい情報を。

座長

そうですね。通常アプリをダウンロードする際に、どこまで通話履歴だとか電話帳だとか、「ポケモンGO」なんかは相当取っていると思いますけれども、個人とは特定できないという形で当然ながら前提にはなっているのですが、その辺りもやはり、特に女性ですから自治体が提供するアプリということなのでその辺の信頼性は一定程度あるかと思えます。

やはり実際にダウンロードしてもらって、アプリを常駐させて使ってもらおうということになると、その辺の情報量というか、吸い上げる情報量に関しては最小限にした方がいいのかな。どの程度の情報になっているのか分かりませんが。

事務局

最低限お子様の生年月日と、あと、位置情報は頂くことをご承認いただいております。一応、登録されたお子さんの情報によって、その都度必要な、例えば予防接種の情報を丹念に発信したりですとか、そういった機能が付いておりますので、お子様の生年月日ですとか、ニックネームでもかまわないのですがお名前を登録いただく。また、適宜自分で写真を撮ったりして記録できる機能もありますので、これは市の方では確認できないそのアプリの中だけの機能と聞いておりますが、そういったこともございます。これは、近くの病院ですとか公園なんかはどういうふうに行くといいか、一番近い最寄りの公園はどこかといったところを検索できる機能が付いておりますので、位置情報は頂きますということをご承認いただくというスキームになっていると聞いております。

座長

分かりました。GPSを切っている方は情報が行かない。GPS情報とか、それも今ご説明を聞くと、近隣の各種医療施設を情報提供してくれるということで、その辺も、丁寧にというか、どういう意図でGPS情報を使うのかとか、そういう説明もあった方が、よりダウンロードのハードルは下がるのかな。単にGPS情報を取りますというだけだと、常駐している時に常にどういう移動経路で、どういうエリアを移動してというような、すべての情報を取られるような印象がかなりあるかと思えますので、場合によってはGPSではなくて住所というか、そういうものを入力するだけで施設の情報を提供するような、そういう形でもいいのかなと思います。

それでは、これで1巡目、地方創生先行型交付金充当事業2つについてのいろいろなご意見を頂戴いたしましたけれども、全体としては当然ながらKPI数値目標に対する達成度を確かめるということで先行してやっている事業ですので、事務局からの説明資料及び各委員の皆様方のご意見を総合しますと、一定程度、目標に向けて達成度、成熟度は進んでいるのかなという印象を受けております。

ただ、数値目標にこだわらずに、中味というところを、最終的な目標というところをベクトルとして置きながら、場合によっては数値目標を上方修正していくような部分、これは先ほど野村委員からご指摘があった資料館については、既に4月末で達成、5,000人に近い数字、基準値に近づいているということで、その辺、資料館の実数が全体の目標値に対しての割合が低いので、どの程度調整や修正ができるか分かりませんが、その辺の数値目標に関しても、見直しを進めていってもいいのかなと思います。

2) 清須学推進事業について

座長

それでは、若干時間が押しておりますので、2つ目の議題(2)清須学推進事業についての議論に入ってまいりたいと思います。

これもまた同じ順番で恐縮ですけれども、清須学推進事業についてのご意見を、1人これも4～5分を目途にご意見を頂戴したいと思います。それでは山本委員お願いいたします。

山本委員

山本でございます。時間が押していますので、手短かに申し上げさせていただきます。

全体的にすごく良いことですし、意見の方も拝見しましたけれども、全く異論はないというところがございます。

1点私が強調したいのが、2ページ目の上にある受講者ターゲットでございます。本市の歴史的な地域資源に関心のある方。これはもちろんなので、その後ですね、学校の先生の受講推奨、これは素晴らしいことだと思っています。というのが、前者の方、もちろん関心のある方に受講していただいて、いろいろ口コミしていただきたいのですが、学校の先生ですと若い世代に対してアプローチができる。さらに、学校というのは毎年毎年、新しい生徒が来ますので、これが企業だと毎年新しく入ってくるのが数名とかいう中で、何百名という単位で新しい生徒が来ますので、これはぜひ推奨していただければと思っています。

特に、高校、できれば大学は卒業の必修科目ぐらいにして、清洲城と朝日遺跡に行かないと卒業できない。それくらいまでやっていただきたいと思います。以上でございます。

座長

ありがとうございました。受講者ターゲットに関しては、今ご指摘いただきましたけれども、教職員への受講は確かにその後の生徒さんへの波及効果も含めると、かなり大きな効果につながっていく可能性がありますので、卒業単位にするかどうかは各学校法人にお任せするにしても、そういったある程度教職員の方に、強制ではないですけども、清須市にある学校法人としての担っている役割を十分ご理解いただいた上で、活用していく必要はあるのかな。

あと、もう1つ、受講者ターゲット、本市の歴史的な地域資源に興味がある方、関心がある方ということで、基本的には市内の居住者が中心だと思います。これは市外でも、先ほど、シンポジウムが来月、山田委員にもご登場いただくシンポジウムの参加者がまだ少ないという話

があったのですが、この辺も清洲城というのは全国区のお城ですし、シンポジウムに関しても市内だけではなくて、域外へのPRも必要なのかなと。その辺は、清須に興味を持ってもらう方であれば誰でもいいのかなという感じは持っておりますので、この辺も市内中心、シビックプライドという観点からいくと市の居住者ということになりますけれども、先ほど言ったように城ガールとか歴女とか、域外にもかなり清須に興味を持っている方はいらっしゃると思いますので、その辺も広くターゲティングしていただければと思います。

それでは続きまして、野村委員お願いいたします。

野村委員

私も同じところに目を付けたわけですが、2ページの先ほどの受講者ターゲット、こちらの教職員への受講勧奨というところがいいかなと思いました。特に、小中学校の教諭なので、私どもの傘下にあります。先ほども話をしました朝日遺跡ですけれども、全国最大規模の弥生時代の環濠集落があるにも関わらず、27年度の、県政世論調査というのを毎年やっているのですが、こちらでは20歳以上の方3,000人を対象にして1,774人から回答を得たということなのですが、9.8%しかご存じない状態であったと。

それから、昨年5月に「探Q！Aトリップ」という民放番組で、清須市の特集があったと聞いておりますけれども、その中でも市民の方へのインタビューのコーナーでもほとんどの方が知らないという回答だったようです。実は8月9日に清須市さんの方で設置されました清須学推進会議でも、2人の委員の方からの発言もありましたように、ひとえに本県の広報不足だと認識しております。

話がそれましたけれども、認知度を高める上で一番大きいのは学校の授業だと思うのです。先日、私事ですが、尾瀬に行った時に、そこでは皆が同じように「夏が来れば思い出す」という「夏の思い出」の歌を口ずさんでいるわけですね。それはひとえに、学校の授業の中で童謡唱歌として学んでいるということだと思われるのです。

現在、小学校6年生で歴史というカテゴリーの中で日本史を学ぶのですが、残念なことに各種ある教科書のほとんどに朝日遺跡が紹介されておられません。事実、朝日遺跡のほとんどが名二環と名古屋高速の清洲ジャンクションの下にあって、佐賀県の吉野ヶ里遺跡ですとか青森県の三内丸山遺跡のように多くが史跡になっていないことが原因で認知度が低いのだと思っておりますけれども、現在、来年度に向けて、せめて本県の小学校で使用していただくこと、副教材としての資料を各学校に提供しようではないかと考えて私ども進めております。

学校の授業で、本県にはこんなにすばらしい遺跡がある、清須市には、我が町にはこんなにすばらしい遺跡があるのだということ学んでもらうことで、お父さんやお母さんを含めて資料館にも足を運んでいただけるのではないかと考えている次第です。

そういった意味から、まず先生方に清須学で学んでいただいて、朝日遺跡の学術的価値だとか、文化遺産としての魅力、清須市の誇れるひとつとして、1講座に含めていただければと思います。

それから、構成のところです。1案、2案という形で提案がありましたけれども、ワークシ

ワークショップの扱いが、清須学推進会議の中でもワークショップをやるのは大変ではないかという意見もあって、1案、2案となっていると思うのですけれども、当面、1年目、2年目と決めるわけではないのですが、当面は、マイスター育成ということを中心に意識されて、何年か経ってからワークショップということも、考えられてもいいのではないかと考えております。

それから、テキストの構成等は清須学推進会議の方に、本県の学芸員も参加しておりまして、そちらにお任せするとして、資料6ページのマイスターの人材活用方針というところですが、ありきたりな意見かもしれませんが、本当に重要なことだと思うのです。ただ講座を受けて雑学としてだけではそれで終わってしまいますので、ガイドボランティアからの意見もありましたように、自発的に動かれる方はこういう情報を待ち望んでみえるのではないかと思います。活動の場を定期的に提供することで、シビックプライドの牽引役となっただけだと私も考えます。資料館にも学芸員がおりますけれども、いわゆる地元の方からガイドボランティアやマイスターとして、朝日遺跡の魅力を発信していただけたらと思います。

それから、先ほど舟橋委員の方から、月曜日から水曜日、祝日がお休みではということ指摘されました。おっしゃるとおりですが、県の方も内部事情がございまして、現在あそこは公的な施設にはなっていないです。文化財保護室の駐在所みたいなことになっておりまして、人も1人しか配置がされてないわけです。土日なんか人が集まる時は、本課の方から応援でということやっておりますが、32年度には新しい施設が出来上がりますので、その時には本格的な体制できちんとしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

座長

ありがとうございました。今野村委員からご指摘がありました、特に小中学校での教職員の受講が非常に効果的なのではないかということで、私も小学校というところ、低学年、中高、特に高校ぐらいになってくるとだんだん興味がなくなっていく可能性もなくはないと思いますけれど、やはり小学校というところが非常に重要ですし、あと、中学校に関しても自由研究のテーマ等で、全員が全員全部同じテーマになっても困るのですけれども、やはり地元の歴史に触れる機会を設定するようなことは非常に効果的なのかな。

私も青森出身ですけど、三内丸山遺跡が出て、国宝の土偶が出るまでは、あまり青森なんて歴史はないだろうという感じで思っていましたけれど、やはりそういうことというのは、小中学校くらいから教材として採用していただけると、年齢が進むにつれて効果が拡大していくのかと感じます。

それから、それに関連して、手法というところでワークショップ、段階的に進めていってもいいのではないかとのご指摘がありましたけれども、私も、これはいろいろな意見があると思いますけれども、ワークショップまでいくと、かなり負担感、ここにも負担感のところ三角になっていますけれども、やはりもう少しハードルを下げ、気楽に参加していただけるような講座にする方がいいのかなと。ただ、フィールドワークが非常に重要で、実際にその場に行ってもらおうということでインパクトは最大化できますので、これは当然ながら入れるということですが、座学だけでもまずいということで。ワークショップに関しては、特に若

年層に関しては、時間的にもそうですけれども、精神的なハードルが高くなるような気がしております。

あとは、ご意見がこの後で出るかもしれませんが、7ページ目のところで、まずは講座のハードルを下げる必要があるという話をしたのですけれども、マイスターの認定方法の案に関しても、講座修了試験とマイスター認定試験。これも、試験というとやはり通るか通らないかみたいな、ある意味プレッシャーになってきますし、講座修了試験の方は、合格基準6割正解ということで、一見ハードルは低そうなのですけれども、試験時間が60分というのも、問題数が30問ですから、テキストからほとんど8割方出るにしても、ちょっとこれは気楽に受験できる感じでもないのかなという感じもします。マイスター認定試験の方は7割ということで、試験時間30分で15問ですから、これも逆に言うと15問で、指定資料がないということですが、あまり難し過ぎてもあれかと思えますけれども、7割という、試験問題は当然全く別物になるにしても、6割と7割という合格基準は1割しか違っておりませんので、この辺も若干分かりにくいのかなと。15問ですと、7割、10問、11問ですか正解ということですから、ある意味たまたま山が当たればという感じもあります。この辺も最終的にはもう少し精査していく必要があるのかなと。

ハードルが非常に低い部分と、ある程度マイスターの箔を付けるという部分と、両方維持しないといけないということで、この辺については、まだ案ということですので、これから精査していただければと思います。

それでは続きまして、北山委員お願いいたします。

北山委員

山本委員から受講者のターゲットのところでお話があったのですが、山本委員と私は反対の意見を持っておりまして、教職員が勉強するために受講するのはいいのです。私も勧めようとは思っていますが、マイスターは、教員はよくないと思っているのです。

それは、去年、自分の学校で1年生の総合的な学習の時間で地域探求をやったのですけれども、いろいろな経験をされたガイドボランティアの方、あるいは学芸員の方、外部の人材から学ぶという、ここが私は大きいと感じております。「また自分のところの学校の先生か」というと授業と変わらなくなるので、教員が学ぶ受講者はいいのですが、マイスターの方は、絶対に学校関係者ではない方に私はお願いしたいですし、今年度、また、去年の取り組みをより深めてやっていくのですが、継続的にと考えていますので、マイスターの方が出てきたら当然、本校の取り組みでは最優先して教えていただきたいと考えております。

私の方からは、外部の方というのがとてもいいのだという話で紹介したいのですが、実は昨年、地域探求でガイドボランティアの方、一番最後の資料にも出てきているのですと、本当に詳しい資料を、かなり専門的な深い資料を、事前学習用とか当日もたくさん資料をコピーして生徒たちに下さったんです。

ですので、野村委員は小中学校の先生ということで、小中学校は学校でやっていただければいいと思うのですが、高校まで来るとやはり、小中学校でやってきたことを、同じことを今さら

やるのかでは生徒もそっぽを向きますので、より高校として学ぶレベルの深化、深めていかなくてはならない。それはガイドボランティアの方の資料で私も救われたと思っています。なので、今度作られるテキストはすごく期待をしています。

貝殻山貝塚資料館の方へ行って学芸員の方にいろいろな説明を、事前に質問を作っていくのですが、高校生の場合は、いろいろお話をいただいたのですが、地域探求の授業を受けた生徒が、今年の5月の連休に保護者と一緒に貝殻山貝塚資料館へ出向きまして、館長さんにお話を聞いた。それは何かといいますと、自分も学芸員のような道へ進みたいと。だから、自分は今後どういうふうに、勉強していけばいいかということ聞きに行ったという。その話を私は聞いて、すごく感動しまして、あの取り組みがそんなところにまで発展していったのかという。地域探求というのも、単なる歴史の勉強、地域を愛する勉強ではなく、キャリア教育の中の1つというところに今年、位置づけたいとあっていて、これからもそういうところにもつながっていくといいなと思っています。

最後に、テキストというのがありますね。5ページで清須学テキスト（案）というのですが、テキストは、ぜひ本校の地域探求でも使えるようにしていただきたいと思うのですが、今もいろいろな資料が図書館にあるのですが、数が限られているのと、図書室というのがスペースが狭いのです。テキストがデジタル化していると、とてもありがたいというふうに思いますので、そこは要望ということでお願いします。以上です。

座長

ありがとうございました。今ご指摘いただいた中では、マイスターに関しては学校関係者であってなくてもどちらでもいいのかなという印象は持っております。もちろん、高校の日本史の先生とか小中学校の社会科の先生とかで、ものすごく地元の歴史に興味があるような方、ガイドボランティア並みの方もいらっしゃると思いますので、志の高い方を中心にマイスターになっていただくということでよろしいかと思っておりますけれども。

その時に、やはり実際、学生に説明する資料に関してはデジタル化を進めていただきたい。そのほうが先生方も、流用というか転用されるケースは使いやすいと思っておりますし、あと、興味を持ってもらうには、先ほど活字をあまり読まないという山田委員からのご指摘もあったのですが、ビジュアル性を高めたり、具体的なマップとか、特に小学校、中学校という順でかなり効果が大きくなると個人的には思っておりますので、そうした教材の出し方についても、漢字ばかりのテキスト、テキスト文書に偏らないような作成をお願いしたいと思います。

あと、キャリア教育にもつながるというお話がありました。これも非常にいい事例ではあるかと思っておりますけれども、学芸員、最終的に狭き門とか、就職する際には相当数は少ないですし、興味を持ってもらうというのは非常にいいかと思っておりますので、最終的にそういう事例も出てくるというのは、効果も大きくなっているということなのかなと思います。

それでは続きまして、舟橋委員お願いいたします。

舟橋委員

先ほどから教職員に受講者ターゲットを、ということでしたが、教職員に勧めたいと思っています。とりあえず今度のシンポジウムのことについては、9月の頭に教職員連絡会議がありますので、そこで話をしたいと思ひますし、それから、清須学講座についても紹介をしたいと思っています。そこでどれだけの人が興味を持ってくれるかは分かりませんが、それはやりたいと思っています。

講座に係る入校とかテキスト代とか、お金はどんなふうになるのでしょうか。その時に言わなくてはいけないので。

事務局

1講座当たり100円の積算でこちらは6講座開きますので600円の受講料を頂戴しようと考えております。ただ、教材費につきましては、通常、本市の生涯学習講座、教材費は別途頂いておるのですが、こちらは交付金を充当する事業でもございますので、今の段階では教材費は頂戴しないという方針です。

事務局

すみません。この講座自体が交付金事業であります。これは内輪の話ですけれども、こういった事業についての受講料は一般の生涯学習講座と違って無料でやれと、市長の方からお声がありました。ですので、無料でということに考えていたのですけれども、交付金事業の要件の1つにやはり受益者負担というのも必要だというような項目がございますので、うちの生涯学習講座同様、1講座100円というのは頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

舟橋委員

教材費は。

事務局

教材費につきましては、これは交付金の中で、交付金の経費で作成の方をしますので、教材費につきましては、頂戴しないというふうに考えております。

舟橋委員

分かりました。要するに600円で教材もテキストも付いて講義も受ける、講座も受けられるということですね。では、そのように教職員に紹介したいと思ひます。

構成（案）のところですけど、本来ならワークショップを一緒に組み入れた方が印象が深くて、深く考えるということになるのですが、最初からはやはりつらいかなと。負担が重いかなというような印象も持ちました。

それから、マイスターという名前がいいと思ひます。コンシェルジュなんて、舌を噛みそう

でよくないです。

それから、私どもの講義の中に教養演習という講義があります。これは1回ずつ、学外から講師に来てもらって90分の講義をやってもらおうのですが、オムニバス形式ですからずっと引き続きでやるのですが、その中に、例えば清須学マイスターの人に来てもらうとか、あるいは朝日遺跡の学芸員の方に来てもらうとか、そういうようなことも今後、考えて取り入れたいと思っています。ぜひともそのようにしていきたいと思っていますので、その節はよろしくお願いします。以上です。

座長

ありがとうございました。今ご指摘いただいた中で、短大の教職員の方へ受講を勧奨していただくということで、先ほど来、私自身、小学校、中学校というふうにお話をしたのですが、高校を飛ばして大学生くらいになると歴史に興味を持ったり、地元の歴史に興味を持ったりという人も増えてくると思いますし、そういう意味では、高校生では受験とか興味もいろいろなところに分散してしまいますけれども、小中、大学、短大、こういう辺りでの波及効果は非常に大きくなるのかなと感じておりますので、ぜひお願いしたいと思います。ありがとうございました。

それでは続きまして、山田委員お願いいたします。

山田委員

先ほど申しましたように、私は基本的にこういうものは「感動」がキーワードだとずっと思っていて、今舟橋委員から大学の話がありました、北山委員からガイドのお話もありましたけれど、私も実体験をしております、やはりガイドの方に説明していただくことで極めて理解が深まりますし、心に届くことがいっぱいあるなど実感しています。

そういう面で行くと、文字を読むだけではなくて、違う情報が得られますので、こういった体験は極めて私は大事だと思っていますので、資料の中のフィールドワークという言葉、2ページのところに書いていただいていますけれども、こういったものも話題の中に織り交ぜてやっていただくと、私は違う情報発信として極めて重要だと思っています。

「感動」という言葉を言っていますけれども、伝える側がその事象に対して本当に感動していれば、そのことをみんなに知っていただきたいという思いを持って自分の言葉でしゃべられる。やはり、私は自分の言葉でしゃべることが極めて重たいと思います。それによって心が通じると思います。

我々のビジネスの世界で何を言っているかということ、短時間で伝えなければいけないということがありまして、よくあるのがテクニカルでプレゼン力です。こういうことは確かにあるのですが、テクニカルに云々というものも1つあるのだけれど、それが主ではなくて、やはり思っていることを自分で言葉で伝えていただくということが主になっていただければ、伝わり方がずいぶん違うのではないかと思います。

実は、私の身近もそうですけれど、高校の教員の授業の中で自分の人生を変えた人を複数知

っています。その方に「あなたは自分の人生を変なふうに変えましたね」と冗談めかして言うのですけれど、高校の先生の影響はそれくらいあるということですね。それって理屈ではないですよ。そういったことは、伝える側としては極めて重たいのですけれど、そういったことも本当に心が通じる伝え方というのもありますので、そういったものをテーマにしていれば、シビックプライド、本当にいい言葉だと思いますし、市民の方々が誇りが持てるような地域だと思っていますので、そういったものが深まる、いろいろな専門の方がたくさんみえる、そういった方々の情報を、こういったキーを通じて集めて、「こんなこともやっておられる」とか「こういうこともあるのか」という新たな発見の場ができればと思っています。

実は、尾張部の周りの市町村の幹部の方とお話した時に、「清須市はいいですよ。いろいろな資産がいっぱいあるじゃないですか。うちって野原の田んぼしかない」とおっしゃったことがあるのですけれど、それくらい周りの方もそうやって見ていただいているのかなと思います。そういったことから、やはり、市民の方々も自分たちの地域について再認識する場ができるということは非常にいいことだと思いますね。以上です。

座長

ありがとうございました。最後にありましたけれど、やはり自治体でこれだけ地域資源がいろいろある自治体はあまりないですから、それをうまく活用すれば今後も定住人口の増加に寄与していけると思います。

今、山田委員から、「感動」というキーワードでお話を頂戴しましたがけれども、やはりギャップというか、「感動」というのは、例えば清洲城とか朝日遺跡とか、そういったすぐ近くにある施設、史跡というイメージと、実際情報が入ってくる内容のギャップでかなり最終的に記憶に残っていくというプロセスになっていくと思いますので、小中、高校もそうですけれども、短大、大学、そういった辺りで地元に関連する人たちに一応残していくというサイクルは地道にやっていく必要があるのかなと。

あとは、個人として、高校生くらいだと興味はあっても、なかなかテキストだけだと興味を持たないのですけれども、清須に関しては「清須会議」とか映画だとかそういったものもありますので、遊びに近い形のコンテンツというか教材を使って、様々な世代で理解を深めていくことも必要なのかなと思います。

それでは最後に、平野委員お願いいたします。

平野委員

清須学というのを設定されまして、清須市の観光を広げていくということで取り組まれるということについては、大事なことだと思います。

これをやられるについて、認定試験をやられるわけですがけれども、予定ではマイスターの認定を10名程度、1年間で。それから、清須学の講座の方は40名ということなのですがけれども、市の方として、清須学の受講者が40名という数字を決められるのですけれど、受講される人はどんなイメージで捉えられているのか。該当者、希望する対象者の方は出ておりましたけれ

ども、40名以上集まってきてしまうというか、それだけたくさんの方が来られるというふうに見られているのか、市の方からお声をかけないと40名ほど集めるのは大変なのかなという。どんな感じに見られているのかということと、もう1つは、清須学を受講された40名の中から希望者の方がいわゆるマイスターの方に挑戦をされるということですけれども、合格は点数ということになるとマイスターの人数、10名というのはどういうふうと考えられておられるのかなと。極端に言うとう講者が全員点数をクリアされれば、マイスターとして認定していかれるという考えなのか。その辺、確認だけさせていただければと思います。以上です。

座長

それでは、運用面について事務局から回答できることがあればお願いします。

事務局

平野委員のご質問にお答えいたします。2点ご質問いただきました。

1点目が、40人という受講者の規模感につきましては、呼びかければすぐにご参集いただけるものと簡単には考えてございません。従いまして、関係するガイドボランティアの方の中にも養成講座を経ずして活動してみえる方等もいらっしゃる聞いております。なので、より近い仕事に触れてみえる方を中心に、こういったご紹介させていただきますとともに、また、先ほど来、舟橋学長先生や北山校長先生に温かいお言葉をいただきましたように、先生方の方にも、また本市の小中学校の方にも呼びかけまして、これは参加の強制はできませんので、お願いをするという形で、なるべくお声掛けをさせていただきたいと考えております。

続いて、2点目はマイスターの認定の10人という規模感でございますが、10人という規模感に枠をはめているものではございませんで、あくまでも、座長先生からもハードルの問題等ご指摘いただきましたので、ハードルをどういう形で設定するかというのはまた別途、清須学推進会議の方でも、より突っ込んだ議論を頂こうとは思いますが、基準をクリアされた方は全員認定というふうな方向性で進めたいと思っております。以上でございます。

平野委員

ありがとうございました。

座長

ありがとうございました。最後にマイスターの認定方法についてご指摘いただきましたけれども、これに関しては先ほど私もコメントしましたがけれども、講座修了とマイスター、試験時間とか問題数とか、あと合格基準もマイスターとって、相当問題が難しいのかもしれませんが、7割というのは正答率としては低いのかなと。うちの大学でもS評価は90点以上ですし、運転免許でも9割以上という感じですので、この辺はシニアマイスターとかマイスターの中でも段階を分ける可能性もあるようだけれども、この辺については再検討というか、精査していただきたいと思います。

時間が10分ほど超過しておりますけれども、これで全体の議題について2巡、回しましたので、各委員の先生方からはかなり具体的なお指摘なども頂いておりますので、今後、清須学推進事業を進めていくに際しまして、そういった提言等を踏まえて再検討していただければと思います。

それでは、以上で議題を終了いたしましたので、進行を事務局にお返ししたいと思います。

3 閉会

事務局

内田先生、会議のお取り回しありがとうございました。

それでは、本日の議題もすべて終了しましたので、「次第」の「3 閉会」に移りたいと思います。

今日は、貴重なご意見を頂戴しまして、誠にありがとうございました。

この総合戦略に基づく施策を着実に推進し、成果を上げていくためには、本日のように事業の効果を検証することや、それに基づく改善の検討を継続的に行っていくことが重要だと考えております。

今年度は、総合戦略が稼動したばかりですので、地方創生先行型交付金の充当事業のみを検証対象とさせていただきますが、来年度からは総合戦略全体が検証対象となります。この会議の中で、検証結果に基づき適宜、総合戦略の改定を行う必要もあろうかと考えておりますので、引き続きご意見、ご提案を賜りたいと思います。

なお、最後になりましたが、本日ご出席の、労働団体からご出席いただいております平野委員様におかれましては、9月末日をもちましてご定年を迎えられるということで、この度のこの会議を最後に、本会議の委員をご勇退されます。

ここで平野委員様から一言、ごあいさつの方を頂戴したいと思います。

平野委員

今紹介いただきました平野ですけれども、労働団体の関係から出席をさせていただきました。今言われましたように9月末で定年ということで、イコール組合の役員を降りるということで、組合の役員としてこちらの席に着かせていただいていたので、今日の会議で最後ということでございます。

私としましては、清須市という行政の会議体に出席させていただいたのは、非常に貴重な体験でございました。いろいろなご意見を伺いながら見識を深められたと思います。これからまだ、私の世代は年金を即もらえるということではございませんので、雇用延長で、まだ組合員としては会社生活を送るということになりますので、この貴重な体験を今後の会社生活に、それから人生の糧にしたいと思います。

大変ありがとうございました。以上であります。

(拍手)

事務局

平野委員様ありがとうございました。

なお、平野委員様のご後任の方につきましては、引き続きまして労働団体ということで組合様の方にご推薦をお願いしまして、次回、来年度の会議からも引き続きご参画をお願いする予定でございます。

ここで1点、事務局よりご連絡がございますので、ご紹介をさせていただきたいと思っております。

事務局

今、チラシの方を職員が配っております。こちらの方につきましては、現在、清須市としまして市の最上位計画に当たります総合計画が、29年度を始めとする総合計画の策定の方をしております。この総合計画の策定に当たりまして、「清須市第2次総合計画市民説明会～新たなステージのまちづくり～」と題しまして、8月27日に説明会の方を開催したいと考えております。

場所の方が春日公民館大ホールということで、定員300名、事前申し込み制と書いてございますけれども、実質、こちら公民館の大ホール、600席ございます。現在、お恥ずかしいのですけれども、200前後の人数しか集まっていないというのがホンネのところであります。

皆様方には地方創生の方でいろいろご意見等いただいております。施策につきましても議論の方をいただいております。総合戦略の上位計画に当たる総合計画の策定ということになりますので、ぜひ皆様も時間が合えば、こちらの方の説明会にも出席の方をお願いしたい、あと、皆様方の周りの方にも、市の方向性を示す説明、市長自らその方向性の説明に当たりますので、こういった機会を捉えて中味の方を知っていただきたいと思いますので、ぜひともご協力の方をよろしくをお願いしたいと思います。

事務局

では、本総合戦略の推進会議の次回の予定でございますが、来年度になりますが、8月頃を目途に来年度も1回程度開催を予定しておりますので、また、その際はご案内及び会議資料等を事前にお送りしたいと思いますので、その際はご参加の方をお願いしたいと思います。

それでは、以上をもちまして「平成28年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」を終了いたします。

皆様、長時間に渡りましてご議論いただきましてありがとうございました。

以 上